

「施設を100年持たせたい」

若手建築職員が一丸となり 発注者の思いを実現



タキイ種苗関東支店の新築工事が茨城県つくば市で行われています。施工を担当している奥村組タキイ種苗つくば工事所の若手建築職員がこの工事でどのような働き方をしているのか、工事概要を交えて紹介します。



建築係（躯体担当）

ひらやま しげる 平山 茂 氏

長崎県出身の平山さんは高校時代に雲仙岳災害記念館を訪れ、丘の頂部に沈み込む印象的な建物の施工が奥村組だったことを知る。第一志望だった奥村組に入社し、超高層マンションの工事に従事した。その後、原子力発電所、社会教育施設などの工事を経験し、東日本支社のビルライフケア部の配属となる。既存建物のアフターケアも担当し、「施工時に注意すべき点などを勉強できた」という。休日にはゴルフやバイクでのツーリングを楽しむ。応用課程建築施工システム技術科卒、2008年入社。



担当業務と苦労は何ですか？

私は現在、躯体工事全般を担当しています。その中でも、鉄骨工事を経験したことがなかつたので、鉄骨の施工・管理方法を勉強することから始めました。先輩の指導を受けながら鉄骨の建方計画などを行いましたが、いち早く技術を習得して作業当日の安全確保につなげたいと特に難しく感じたのは、「格子染」の製作とその建方でした。地上で鉄骨の梁と桁を格子状に組み立てる作業もさることながら、一体となつた部材を揚重して躯体全体に組み上げていく作業にも大変苦労しました。この一連の作業では、建物の

床が完成時に鉄骨や床コンクリートの重みでたわまないよう、あらかじめ鉄骨を上側に湾曲させておく必要がありました

ので、鉄骨の加工品質と組み立て精度の確保に細心の注意を払いました。

鉄骨工事以外では、屋根回りの工事用足場を計画することで苦戦しました。急勾配の屋根に設置する工事用足場は屋上の機械基礎を避けて設置する必要があり、足場を設置する場所ごとに屋根形状や機械基礎の位置が異なつていましたので、数多くの計画図を作成して対応しました。

職場での楽しみは何ですか？

職場では職員の年齢が近いこともあります。コミュニケーションが非常に取りやすく、何でも相談できます。工事の進ちょくが当初計画より1か月程度早いことからも、工事所内でのコミュニケーションのよさがうかがえると思います。仕事のほかでは、工事所の近くにある宿舎を私を含めた3人の職員でシェアし、早く帰った者が夕飯を作るなどして仲良く暮らしています。

私は技術者として、発注者、設計者、施工者の3者の思いを実現し、残すことになります。この工事では、これから建物の外装工事にかかりついきますが、躯体工事で使用した工事用足場の解体とともに、意匠性が高い外観の建物が姿を現すことを、まずは楽しみにしています。

FOR STUDENTS

「一口に建設業といつても、それぞれ社風（企業風土）が違う」と指摘。これから建設業を目指す学生には、「会社説明会に参加したり、諸先輩から多くの情報を得たりして、『自分に合った会社』を選んでいただきたい」と話す。



今は、いち早く大規模現場の所長に抜擢されるよう、技術者としての礎をしっかりと築いていきたいと考えています。

今後の目標は？

目標は「大規模現場の所長」になることです。本格的に建設業で働きたいと思ったのは、大学で現場監督の仕事を学んだ時です。

2回生の頃まで木造建築を学び、大工の仕事を憧れています。ところが、3回生になつて鉄骨造りや鉄筋コンクリート造りの建築を学んでいくうちに、さまざまな職種をまとめながら、一つの建物を完成に導いていく現場監督の仕事の奥深さを知り、「俺もこの仕事に就いて活躍してみたい」と思ったのがきっかけです。



後列右から高橋裕二さん（26歳、入社2年目）、建築主任の長谷崇弘さん（30歳）、竹部志洋さん（25歳、入社1年目）、面接担当の渡辺憲治さん。前列右から橋本翔太郎さん（25歳、入社4年目）、木村友行所長（36歳）、平山茂さん（29歳）。

※ 表紙の写真は平山さん、裏表紙の写真は竹部さんです。

現場所長から

現場をまとめるためには、こまめにコミュニケーションを取ることが大切だと考えています。部下が「何かに悩んでいるな」と思ったら必ず声をかけるようにしていますし、何事も放置せず、極力全員で集まってミーティングをするようにしています。週1回程度の“飲みにケーション”も忌憚なく話せる機会であり、大事だと思います。所内では、各担当者の電話の受け答え一つで工事の進ちょく状況やトラブルの有無が分かりますので、常に耳を“ダンボ”にしています。

所長の役割は、工事所をマネジメントすることであり、安全・品質・原価・工程・環境に関する工事所全体の方針を決定することです。また、発注者や設計者との協議、社内の専門部署との連携も所長の重要な任務であると考えています。若い職員だけで大変だろうとみる向きもありますが、支社の支援体制がしっかりしているので工事は問題なく進んでいます。今回の工事では、発注者に建物への強い思いがあり、設計者がその思いを設計に反映させています。施工者である我々が「できない」とは決して言いたくありません。発注者、設計者および施工者がこれまでに築き上げた信頼関係をより一層強固なものにしながら、無事、工事を竣工させたいと思っています。

平山は前向きで、常に向上心を持っています。これからは、与えられた仕事を全うするだけではなく、より高いレベルの仕事を目標にし、主任の仕事を奪うくらいの気概を持って仕事に臨んでもらいたいと思います。

FOR STUDENTS

建設業の面白さを「どんなに技術が発達しても、人の手でつくり上げていること」という。学生には、「コミュニケーション能力は武器になるので、サークル活動などでいろんな人と会話をする習慣を身につけておけば、入社してからうまく現場をまとめられる」と助言する。

きむらともゆき
木村 友行 氏

タキイ種苗つくば工事所長。理工学部海洋建築学科卒、2000年入社。福祉施設や病院、警察署などの工事を担当し、31歳の時にマンション工事で工事所長に就任。



配管を通す孔を開けた格子梁



レイアウト変更が可能な事務所部分

100年持たせる
冗長性を確保せよ!

事務所は、床下に400ミリのスペースを確保するOAフロアとし、将来的な配線や配管の変更に対応できるようになります。また、天井には、格子梁の梁高に相当する625ミリのスペースを確保し、梁に孔を開けて配管を通していません。さらには、オフィスのレイアウト変更に応じて扉の位置も変更できるようにするなど、「施設を100年持たせたい」という発注者の思いに応える配慮を随所に施しています。

タキイ種苗株式会社 関東支店新築工事

発注者＝タキイ種苗株
設計＝株アールセッション
施工＝株奥村組
所在地＝茨城県つくば市葛城一体型特定土地区画整理事業
地区D 29街区第3画地
規模＝SRC造3階建て延べ6,236m²
用途＝事務所、倉庫
工期＝2014年2月1日～2015年1月31日

東京都内にあるタキイ種苗の東京支店から約40名がこの建物に移ってくる予定。長谷建築主任は、「現支店の皆さんは、施設を清潔に保ち、大切に扱っていただけるお客様だ」と話す。

建築主任から

建築主任である私の役割は、工程の計画・調整、発注者や設計者との打合せ、図面のチェックが主です。現場にも出ますが、4人の部下を従えながら現場管理を進めています。所長が36歳と若く、ここまで若いメンバーがそろった現場は社内にありません（私は30歳、部下は25～29歳）。部下には、この工事で多くの工種を担当してもらい、経験を積ませたいと考えています。

主任の立場としては、所長が現場に頻繁に顔を出すのはあまり好ましいものではありません。できるだけ所長の手をわざらわせず、現場を切り盛りすることこそ、主任の役目だと思います。

平山はまじめで、常に全力で仕事に取り組むタイプです。上司と部下というよりは、何かあればすぐに相談し合える良好な関係です。現場にはいろんなタイプの作業員がいますが、平山は彼らの話をよく聴き、自分の意見も主張できるので、現場での立ち回りが上手です。

現在、躯体工事を担当していますが、今後は別の工種の経験も積み、さらにステップアップしてもらいたいと考えています。

近い将来、主任を任せられるようになるので、現場管理はもちろんのこと、発注者や設計者との協議にも慣れてもらい、協議で決まった内容が工事に反映される過程などを実感しながら工事を進めるようになってほしいと思います。

FOR STUDENTS

建設業には、きつい、危険だというイメージがあるかもしれないが、「建物ができた時の達成感は大きい仕事だ」と話し、「100年残る建物を一緒につくりましょう」と学生にメッセージを贈る。

はせ たかひろ
長谷 崇弘 氏

タキイ種苗つくば工事所建築主任。建築学部建築学科卒、2007年入社。オフィスビル、マンション、医師会館、病院など7年間で9現場を担当。3年目から部下が付き、所長との調整役を果たす。

格子梁を
ミリ単位で水平に設置せよ！

発注者の思いを実現 壁をつくれ！

ぶ厚いコンクリートの
壁をつくれ！

大空間の倉庫を実現する格子梁は、最大で23mの長さになります。建物の床が完成時に鉄骨やコンクリートの重量でたわまないよう、22ミリの「むくり」をつける必要があり、鉄骨の加工品質や組み立て精度を厳密に管理しながら施工しています。



大空間の倉庫をつくるための格子梁

震度7の地震に耐えられる安全な建物を600～800ミリで構築しています。品質のよい躯体コンクリートを確保するため、コンクリートの調合や打設計画を入念に検討しました。



800ミリの厚さのコンクリート壁

**タキイ種苗株式会社
関東支店新築工事**

発注者＝タキイ種苗株
設計＝株アールセッション
施工＝株奥村組
所在地＝茨城県つくば市葛城一体型特定土地区画整理事業
地区D 29街区第3画地
規模＝SRC造3階建て延べ6,236m²
用途＝事務所、倉庫
工期＝2014年2月1日～2015年1月31日

東京都内にあるタキイ種苗の東京支店から約40名がこの建物に移ってくる予定。長谷建築主任は、「現支店の皆さんは、施設を清潔に保ち、大切に扱っていただけるお客様だ」と話す。